**令和7年度 周防大島中学校研究主題**

すべての生徒が「わかる」「できる」授業をめざして ～授業参加と授業理解のデザイン～

# 周防大島中学校 研修通信 vol.6

## 第１回校内研修会

第１回校内研修会が無事終わりました。研究授業を提供してくださった A 先生、B 先生、お疲れさまでした。それぞれの授業を拝見しましたが、A 先生の授業は、一次方程式の単元でスマホの料金プランを、B 先生の授業は、水溶液の単元で濃度の計算を用いてのジュースづくりと、「授業参加」という点において、とても工夫された授業となっていました。生徒たちの食いつきもよく、導入の工夫として大変成功していたのではないかと思います。学習している内容と実生活をどのように結びつけるかということは、教師の腕の見せどころでもあり、頭を悩ませるところでもあります。日頃学習している内容が実生活に生かせる（生かされている）ということを生徒が実感できれば、学習意欲も高まるのではないかと思います。これからも、生徒が主体的に授業に参加しようと思えるような導入や教材の工夫に全校体制で取り組んでいきましょう。

研究協議では、それぞれのグループにおいて、様々な視点から協議が行われていました。個人的には、小学校の先生方の意見が中学校教員の私からすると新鮮で、大変勉強になりました。また、理科部会の指導助言で、小松先生がおっしった、「今年度の本校の研究主題である「すべての生徒が「わかる」「できる」授業をめざして」の逆の状態を考えてみると、課題の解決への糸口が見えてくる。」という、ご指摘はその通りだなと思いました。「わからない」「できない」授業は、生徒にとって苦痛な50分といえます。そうならないように、目の前の生徒の実態を踏まえながら、50分の授業の中で少しでも「わかる」「できる」瞬間がくるような教材、指導法のレパートリーを増やしていく必要があるなと感じました。

また、指導助言の中では、「誰一人として取り残さない授業」をキーワードから、伝統的な「一斉画一授業」を崩すという話が出てきました。これまで以上に一人ひとり異なる学習履歴や学習状況を抱えている生徒に対して、「一斉画一授業」では対応しきれないということから「個別最適な学び」を授業の中で取り入れてみようという提案がありました。「個別最適な学び」は、次の学習指導要領でもキーワードとなりそうな言葉です。「個別最適な学び」としての自由進度学習などを普段の授業に取り入れることはなかなか難しいとは思いますが、文部科学省が作成したサポートマガジン「みるみる」を共有フォルダの研修の中に入れておきましたので、ぜひ、ご覧になって参考にされてください。また、全校体制で取り組む学力向上策の好事例として紹介された光市立島田中学校の取組が掲載された「やまぐちっ子学力向上だより」をご参照ください。

研究授業の様子